

# 関東甲信越東海GIS技術研究会ニュース

## 第9回定時総会 H21年度第1回定例会

平成 21 年 4 月 28 日(火) 13:10 よりTKP東京駅ビジネスセンター1号館において定時総会、及びH21 第1 回定例会が開催された。

冒頭に増沢会長が挨拶し、業界の苦しい状況が続くなか、我々は新しい取り組みとして GIS に傾注している。当研究会も5 年が過ぎ、新たな局面に新たな要素で臨んでいる現状である。

昨年度は千葉でのミニセミナー、技術部会によるスキルアップ講座、宇都宮での国土地理院の松村部長を招聘し全国縦断セミナーを催し多くの人に来場いただいた。また、内部的には組織改革委員会を設けてマンネリ打破に向けて協議されている。外部環境としては基盤地図情報整備関連事業、準則改訂(JPGIS)対応の製品仕様書など仕組みの変わった物が登場している。

当研究会は地理情報研究部会を中心に大縮尺の製品仕様書作成にも取り組んできており、今年度は全測連と共同で全国での JPGIS 講習会を実施する。講師は当研究会の会員が受け持っている。測量行政懇談会などでも資格制度特に測量士の資格制度変更が取りざたされているが、こういった時代だからこそきちんとした知識と裏付けを持った当研究会員のような技術者こそがこれからの時代の技術者になる。現況は厳しいが、元気を出して進んでいこう。と会員の奮起を求める挨拶となった。



(挨拶をする増沢会長とご講演いただいた国土交通省関東地方測量部部長 松村 正一 様)

続いて、「平成 21 年度 国土地理院の重点政策」と題し、国土交通省国土地理院関東地方測量部部長 松村正一 様にご講演いただいた。

松村様と GIS とのかかわりを振り返りながら、阪神淡路大震災がきっかけとなり登場した GIS がこれほど普及し、インターネットの普及や、当時のワークステーション同等性能の PC が普通に使用できるようになり、携帯電話のコンテンツでさえ地図の利用は容易になった。スタンドアロンからネットワーク型、統合 GIS も可能になっている。同時に行政側として業務の内容や枠組みが大きく変化してきている。発注の内容や、作業の内容なども実態に即した法律になっていない部分もある。こういった会で研究してもらい、意見や考えを聞かせてもらえることはありがたい。とご挨拶いただき、

続いて資料を元に「基盤地図情報整備事業」「地理空間情報の提供、流通に関するガイドライン」「基本測量に関する長期計画・パブリックコメント」「測量行政懇談会」等々の解説をいただいた。松村部長におかれては大変お忙しい中、ご臨席いただきました。誠にありがとうございました。誌面を借りて御礼申し上げます。

その後、総会において平成 20 年度事業報告、決算報告が審議され可決された。また、平成 21 年度の事業計画、予算についても審議可決となり、新年度の活動が正式にスタートすることとなった。新年度の主要な事業計画は次の通り。

- 継続事業 全国縦断 地理空間情報活用促進セミナー 開催予定 8 月：群馬県
- 継続事業 ミニセミナー2 箇所程度(随時)
- 継続事業 スキルアップ講座
- 新規事業 活性化対策事業(会員の情報共有を目的とした WEB, ブログ利用の運営)

また、関東甲信越東海 GIS 技術研究会として、NPO 法人全国 GIS 技術研究会で継続研究をする、地理情報部会による JPGIS 関連の技術研究（製品仕様書等々）の継続と情報部会による個人情報保護関連に対する研究、時代にマッチした組織改革のための組織変革委員会に参画していくことが審議、承認された。

最後に会則変更が審議され、今後行政経験者、学識経験者など、会に必要な外部人財を組織内に受け入れられるよう会則変更が上程され、審議可決となった。

報告事項として会員の動向が報告され、新入会員 2 社（群馬県）が紹介された。



(株)協和テクノ代表取締役 殿村 雅史氏



(株)スタッフ 代表取締役 篠原 茂氏

定例会においては増沢会長より地理情報委員会（旧地理情報部会）と情報委員会（旧個人情報保護部会）組織検討委員会の今期活動が資料に基づき紹介された。

続いて宮下副会長からは活性化事業として WEB を利用した情報共有システムがサンプルを利用しながら例示され各会員の今後の活動に併せてアンケート調査の実施が通達された。

これらにより、一層の存在価値、付加価値が強調され高められる活動が推進されることとなる。

各社の情報や業務に対するの協力支援体制、情報共有体制が強化されることにもなり、当研究会の活動の歩みを確実な物にしていく方向性が確認された。

「NPO 法人全国 GIS 技術研究会よりの情報発信」と題し NPO 事務局長の宮島四郎氏より現況報告がありました。作業規程（準則）の改定を受け、JPGIS の動向と製品仕様書、さらにそれを受けて実施されている全測連主催 JPGIS 講習会における当会よりの講師派遣について、同時に各地からの講習会依頼の増加（各地技術センターベース）の情報提供があり、各社の地元での展開、PR につながる糸口が例示された。



(宮下副会長)



(宮島 NPO 事務局長)



(株)マップコン 馬場社長)



定例会最後のメニューとして(株)マップコンの馬場社長が登場し、現状の GIS と将来に向けての方向性を講演していただきました。

現在、発注側は基盤地図情報原型データベースと地理空間製品仕様書に対応した成果品の評価に関心が高まっている。(路線、河川、用地)例えば自治体の担当者がきちんとしたデータ取り扱いが出来なければならないので公共測量ビューアコンバータを用意し、納品している。

また、基盤地図情報の進行は著しく、多くの作業が発注されており、今後もまだ多数が予定されている。との情報提供もいただいた。

今後の方向性として、いよいよ縮尺にこだわらないシームレスな地図情報の時代がやってくる。そのために現在、各種整合性を高めるツールや、補正や調整をするためのツールを開発し、納入している。

また、データ処理作業結果と DM データの整合性チェックを現地でやるような作業も受注し検証をしている。3D の点群データやモバイルマッピングと言うジャンルにも関心はあり、技術的には対応できるが本当に良い形は何かを模索している。

Web-GIS は電子国土ベースでシステムの構築をしていくことが普通になりつつある。電子国土の上にデータを載せて、更に PC で調整する。そんな作業が増えていくだろう。そう言ったケースを考慮し、PC-MAPPING は今後、シンクライアントにも対応していく、また、Windows VISTA の 64 bit 環境は広大な仮想メモリー空間が最大の魅力でメリットがある。2008 Server の機能と併せて有効利用する具体的な使い方も考えていくべきである。おそらく今後の開発の主流になるのではないか。過去のカスタマイズ部分も、サーバーにさえあれば流用できる。資産を引き継いだままで進化できる。などと現状の作業状況と今後の開発方針、方向性を発表いただいた。

最後に、GPS を利用した評定図用のシャッターポイントを GIS で管理しオートシャッター化する仕組みや、測技協から要望された JPGIS ソフトウェア認証など、いろいろなことに対応、技術開発している事例を紹介いただいた。

馬場社長に置かれてはお忙しい中、我々 PC-MAPPING ユーザーにとって指標や方向性がイメージできるような元気が出るプレゼンテーションをありがとうございました。今後とも発展し続ける GIS ソフト PC-MAPPING の開発、リリース宜しく願いいたします。

今回の定例会は情報盛りだくさん、今後の期待と希望と、元気をもらって閉会となりました。会員の皆様、今年度も頑張って GIS ビジネスに取り組んでいきましょう！！

その後、約 40 名が懇親会へ移動...

関東甲信越東海ブロックは、お酒の量が増してくるのと比例して、会話の内容も充実(?)してくる。みな本音トークでコミュニケーションを行い盛り上がっています。最後は他のお客様のご迷惑を気にせず、三本締めで解散！

会員各位のご出席、誠にありがとうございました。  
私たちは、この勢いで勝者になりましょう！（事務局）